

製品名: アクチン- α/γ (リン酸化 Tyr55/53) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab04202

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、 -20°C で保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:10000

分子量

抗原情報

遺伝子名	ACTC1
別名	ACTC1; ACTC; Actin; alpha cardiac muscle 1; Alpha-cardiac actin; ACTG1; ACTB; ACTG; Actin, cytoplasmic 2; Gamma-actin; ACTG2; ACTA3; ACTL3; ACTSG; Actin, gamma-enteric smooth muscle; Alpha-actin-3; Gamma-2-actin; Smooth muscle gamma-actin;
遺伝子 ID	70/71/72/58
SwissProt ID	P68032/P63261/P63267/P68133
免疫原	抗血清は、ヒトアクチンパン由来の Tyr55/53 リン酸化部位周辺の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 21-70

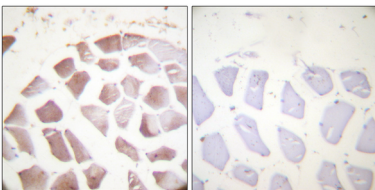
背景

アクチンは高度に保存されたタンパク質であり、様々な細胞運動に関与しています。球状アクチン（Gアクチン）の重合により、二本鎖らせん構造のフィラメント（Fアクチン）が形成されます。各アクチンは4本のアクチンと結合することができます。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、 α 、 β 、 γ の3つの主要なアクチンアイソフォームからなるアクチンファミリーに属します。 α アクチンは筋組織に存在し、収縮装置の主要構成要素です。この遺伝子の欠陥は、特発性拡張型心筋症（IDC）および家族性肥大型心筋症（FHC）と関連付けられています。[RefSeq 提供、2008年7月]、疾患：ACTC1の欠陥は、拡張型心筋症 1R（CMD1R）の原因です[MIM:102540]。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患であり、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。患者は早期死亡のリスクがあります。、疾患：ACTC1 遺伝子の欠陥は、家族性肥大型心筋症 11 型（CMH11）[MIM:612098]の原因です。家族性肥大型心筋症は、心室肥大を特徴とする遺伝性心疾患であり、通常は非対称性で、しばしば心室中隔が侵されます。症状には、呼吸困難、失神、虚脱、動悸、胸痛などがあります。これらの症状は運動によって容易に誘発される可能性があります。この疾患は、良性から悪性まで、家族内および家族間で多様性があり、心不全や突然死のリスクが高い。、機能：アクチンは高度に保存されたタンパク質であり、様々な細胞運動に関与し、あらゆる真核細胞に普遍的に発現している。、その他：脊椎動物では、 α 、 β 、 γ の3つの主要なアクチンアイソフォームのグループが同定されている。 α アクチンは筋組織に存在し、収縮装置の主要構成要素である。 β アクチンと γ アクチンは、細胞骨格の構成要素として、また細胞内運動のメディエーターとして、ほとんどの細胞種で共存している。、類似性：アクチンファミリーに属する。、サブユニット：球状アクチン（Gアクチン）の重合により、二本鎖らせん構造のフィラメント（Fアクチン）が形成される。各アクチンは4つのアクチンと結合することができる。、

研究分野

心筋収縮;肥大型心筋症 (HCM);拡張型心筋症;

画像データ



アクチンパン (α/γ) (リン酸化チロシン 55/53) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト骨格筋の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。